

法政大学図書館司書課程
メディア情報リテラシー研究 第2巻1号, 30-40

子供達が創る芸術と子供達・家族・友達のプラス感情遷移

浜田正稔
パリ第8大学 招待研究員
Alton GRIZZLE †
Programme Specialist, UNESCO
Kofoworola OYELEYE
Founder, IYIN-CREATIVE, Nigeria

† Contribution to this paper is written as part of the author's work as Programme Specialist in the Section for Media and Information Literacy and Media Development, UNESCO. However, the ideas and opinions expressed are not necessarily those of UNESCO and do not commit the Organisation.

1. はじめに

津波災害や戦争による避難生活や covid-19 などの非日常生活では、子供達だけでなく家族など子供達の周りの人々も同様に心理的な負担が大きい。芸術はこのような心理的負担の回復や軽減に利用できる。メディア情報リテラシーへ芸術の心理的要素を組み入れることができれば、非日常生活での実践、そして 2030 年からのポスト SDGs へ向けた心理的要素の提言が期待できる。MIL Expansion(MIL^x)⁽¹⁾ はリテラシーを個人から個人・グループ・インスティテュートへ拡大し、ソーシャルコンピテンスや感情部分のリテラシーと統合できるため、covid-19 などの非日常生活でも実践できるメディア情報リテラシーである。

「津波や河川氾濫などの被災地にいる子供達、戦争による難民生活をしている子供達へはどのような芸術が良いのだろうか?」、「家族や友達など、子供達の周りの人々との関係はどのようにしたら良いのだろうか?」、また「covid-19 は世界規模で発生し、日本の被災地に当てはまる芸術が文化の異なる国でも同じであろうか?」本稿は、このような課題をユネスコ MIL^x R&D コンソーシアム⁽¹⁾ として The World Summit on the Information Society Forum 2020 (WSIS Forum 2020) へ発表した資料⁽²⁾ から解いてみた。

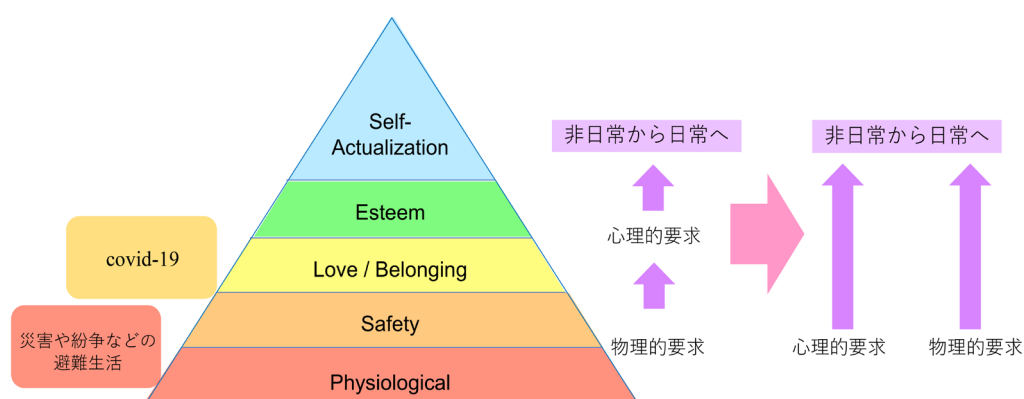
最初に 3.11 津波の避難生活中に子供達が創る芸術と子供達・家族のプラス感情遷移の関係を分析し、非日常生活と芸術の関係を解いた。次にその結果を紛争や covid-19 の非日常生活で困

難な状況にあるナイジェリアの子供達への実践と比較した。この結果、MIL^xを子供達が創る芸術へ応用すると、子供達だけではなく、子供達・家族・友達の相乗効果を伴うプラス感情偏移を得ることがわかった。

2. 非日常生活での心理的要求・物理的要求とMIL^x

大津波や河川氾濫などの被災地や内戦地からの避難では、衣食住の命を守る最低限の要求となり、また命も危険にさらされる。これは、図1に示したMaslow's Hierarchy of Needs⁽³⁾のPhysiologicalレベルに相当する。covid-19は、衣食住は確保できるが感染による安全が未知であることからSafetyレベルに相当する。Maslow's Hierarchy of Needsでは、衣食住や情報などの物理的要求を優先し、物理的要求を満足した後心理的要求を満たす手順を示している。これに対し3.11津波被災やcovid-19の経験では、多くの人々が心理的要求の重要性を肌身で感じていることから、非日常生活では心理的要求と物理的要求を同時に満たす必要がある⁽⁴⁾。

図1 被災時やcovid-19などの非日常生活での心理的要求と物理的要求



芸術はプラス感情遷移を生成できるため、非日常生活の最中でも心理的要求を満たすことが期待できる⁽⁵⁾⁽⁶⁾。また、芸術は全てのMI (Multiple Intelligences) を利用できる⁽⁷⁾。この心理的な要素は図2のように、物理的要求を満たすことが期待できるICT (Information and Communication Technology) などのテクノロジーやAI (Artificial Intelligence) などと別の枠組みとなる。MIL^xは物理的な要求だけでなく心理的な要求をも包括し、メディア情報リテラシーが非日常生活、そして続く非日常から日常へ貢献する社会変動論 (Social Change Theory) である。

本稿では心理的要求を中心に“子供達が創る芸術と子供達・家族・友達のプラス感情遷移”を論じる。情報・メディア・テクノロジーなどとの関連は、今後のユネスコ発表資料 (予定資料の例：図3) を参照されたい。

図2 非日常生活での心理的要求・物理的要求とMIL^x

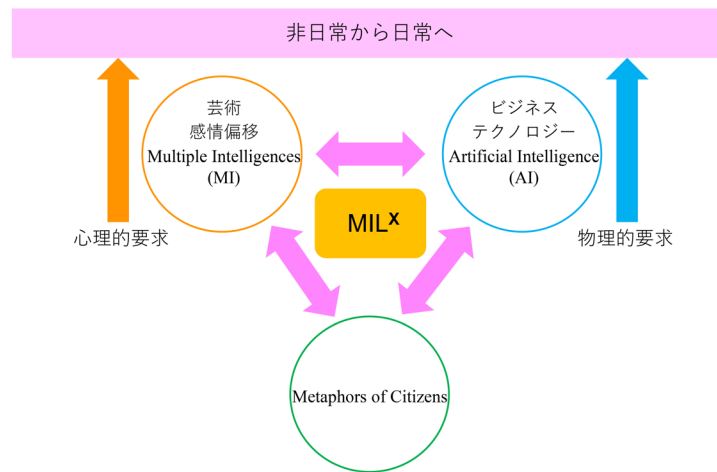
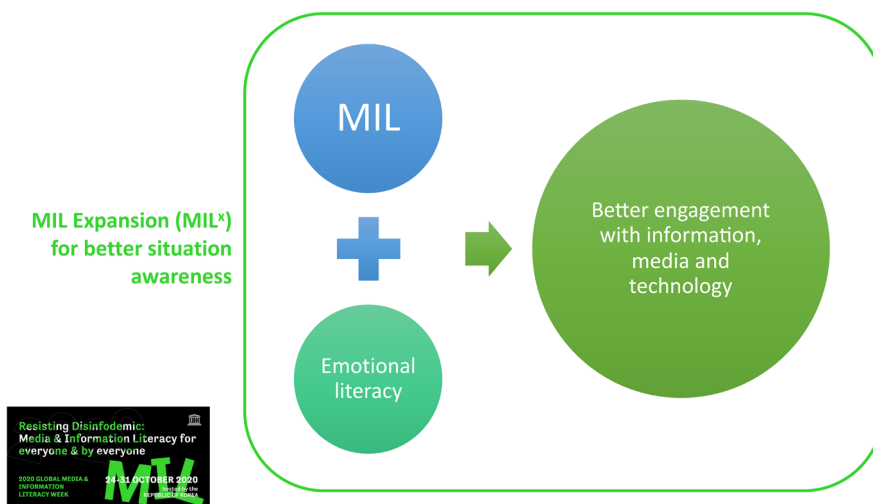


図3 covid-19 contextへ対応するユネスコAlton GRIZZLE氏の提案



3. マイナス状況下での子供達と芸術の関係

被災や covid-19 などのマイナスの状況下で子供達がプラス感情遷移を生成するには、どのような芸術が良いのだろうか？ 入院している子供達への芸術によるセラピーの例⁽⁸⁾では、軽症の子供達は絵画を選ぶ傾向があり、重症の子供達は音楽を選ぶ傾向がある。重症の子供達への絵画によるセラピーでは、心理回復の効果が軽症の子供達より大きい。では、3.11 津波被災地ではどうだろうか？ 津波被災から2年以内の全石巻市立小中学校 11,029 人の子供達の分析結果⁽⁴⁾から見てみたい。

音楽を「聴く」と「奏でる」の繋がり、絵画を「見る」と「描く」の繋がり、音楽と絵画の他要素への繋がり进行分析してみた。

被災の跡が残る中、子供達は音楽（表1、図4）や絵画（表2、図5）のような芸術と関係し

た生活をおくっている。音楽は聴く、絵は描くが多い。物理的な津波被害が小さい地域では、音楽は聴くと奏でるが間接的に繋がり、絵を見ると描くが直接的に繋がる。また、絵画は音楽や工作などの他の芸術と繋がる。津波被害が大きい地域では、音楽は聴くと奏でるが直接的に繋がり、絵を見ると描くが間接的に繋がる。絵を描くだけは、被害が小さい地域より多く、絵画は家族や友達、本や勉強と繋がる。

このように子供達と芸術との関係は、軽症や津波被害の小さい地域は絵画、重症や津波被害の大きい地域は音楽が繋がりやすい。何故だろうか？また、重症や津波被害の大きい地域は“セラピスト”、“家族や友達”など子供達の周りの人々が子供達の絵画と繋がると、絵画による大きな心理的効果を期待できそうである。症状や被害で芸術との関係が異なる理由、そして子供達の絵画と“家族や友達”との関わりを MI (Multiple Intelligences)⁽⁷⁾ と感情偏移コミュニケーション⁽²⁾⁽⁹⁾ で解いてみたい。

表1 音楽を聴くと奏でる

	津波被害が小さい地域	津波被害が大きい地域
音楽が好みに無いタイプ	7.3%	4.9%
「聴く」だけのタイプ	43.2%	65.0%
「奏でる」だけのタイプ	0%	0.4%
「聴く」と「奏でる」が直接繋がるタイプ	9.0%	25.3%
「聴く」と「奏でる」が間接的に繋がるタイプ	40.4%	4.4%

表2 絵を見ると描く

	津波被害が小さい地域	津波被害が大きい地域
絵が好みに無いタイプ	22.3%	22.2%
「絵を見る」だけのタイプ	0%	4.3%
「絵を描く」だけのタイプ	57.5%	66.0%
「絵を見る」と「絵を描く」が直接繋がるタイプ	20.2%	7.5%
「絵を見る」と「絵を描く」が間接的に繋がるタイプ	0%	0%

図4 音楽を聴くと奏でる


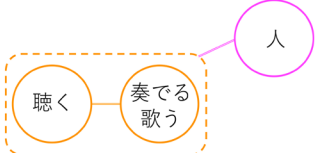

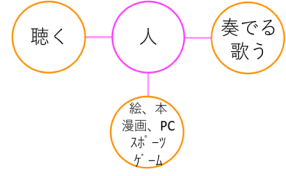
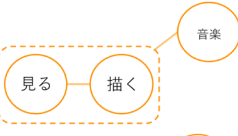
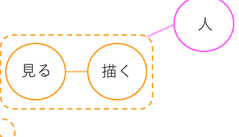


	津波被害が小さい地域	津波被害が大きい地域
「聴く」と「奏でる・歌う」が直接繋がるタイプ	 <p>被害が小さい地域の9.0%</p>	 <p>被害が大きい地域の25.2%</p>
「聴く」と「奏でる・歌う」が間接的に繋がるタイプ	 <p>被害が小さい地域の40.4%</p>	 <p>被害が大きい地域の4.4%</p>

図5 絵画を見ると描く

	津波被害が小さい地域	津波被害が大きい地域
「見る」と「描く」が直接繋がるタイプ	 <p>被害が小さい地域の20.2%</p>	 <p>被害が大きい地域の7.5%</p>
「見る」と「描く」が間接的に繋がるタイプ	 <p>被害が小さい地域の20.2%</p>	 <p>被害が大きい地域の7.5%</p>
「見る」と「描く」が間接的に繋がるタイプ	無し	無し

4. 子供達の芸術と家族や友達との関係

避難生活中の子供達は図6のように全てのMIを有し、津波被害が小さい地域と大きい地域とではMIの割合はそれほど大きな違いはない⁽²⁾。音楽を聞いたり演奏したりする Musical-rhythmic and harmonic、そしてスポーツや体を動かして遊んだりする Bodily-kinesthetic は、子供達自身の Intrapersonal（本稿では感情側と記す）と子供達と家族や友達などの人々と繋がる Interpersonal（本稿では芸術側と記す）の両方にある。感情側では音楽や体を動かすMIのみとなり、芸術側ではこの二つのMIに加えて絵画などの Visual-spatial の占める割合が大きい。このMIを図7の感情偏移コミュニケーションで見ると、音楽と運動のMIが直接プラス感情偏移に繋がる。なお、動物と触れ合うなどの Naturalistic は隠れたMIとなる⁽²⁾。

図6 避難生活中の子供達のMI（避難生活中の石巻の子供達）

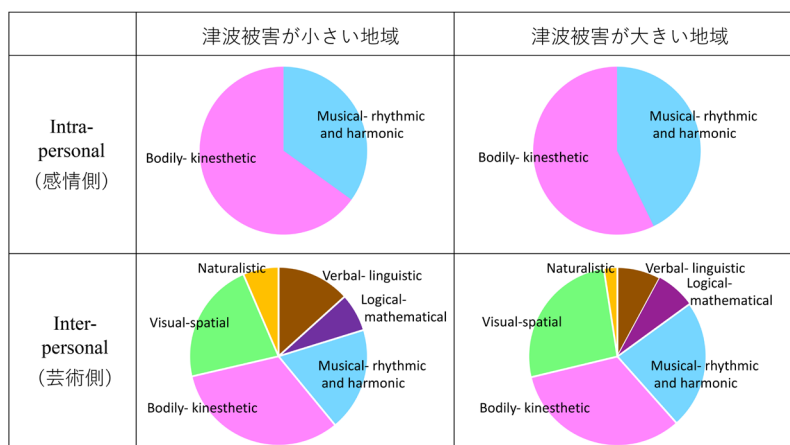
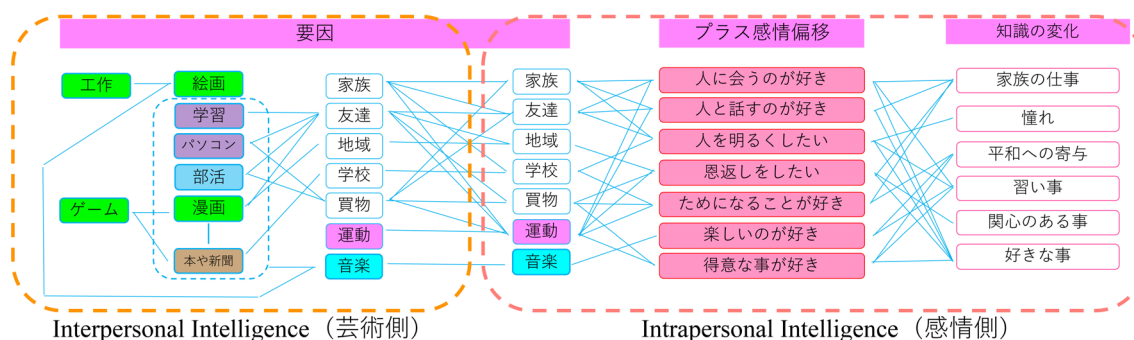


図7 芸術の感情偏移コミュニケーション（避難生活中の石巻の子供達）



避難生活中、子供達は津波被害が小さい地域と大きい地域で違う感情偏移コミュニケーションを有している⁽⁹⁾。被害の小さい地域は、図8のように家族や友達が子供達のプラス感情偏移と感情側で直接繋がり、音楽・絵画・工作が独立した芸術側のMIとして存在している。被害が大きい地域は、図9のように家族や友達が子供達のプラス感情偏移と芸術側で間接的に繋がり、音楽がプラス感情偏移と感情側で直接、芸術側の音楽・絵画が家族と繋がりながら子供達の感情側へ繋がる。また絵画は学習・パソコン・部活・漫画・友達と繋がり、友達経由で子供達の感情側へ繋がる。

図8 芸術の感情偏移コミュニケーション（津波被害の小さい地域）

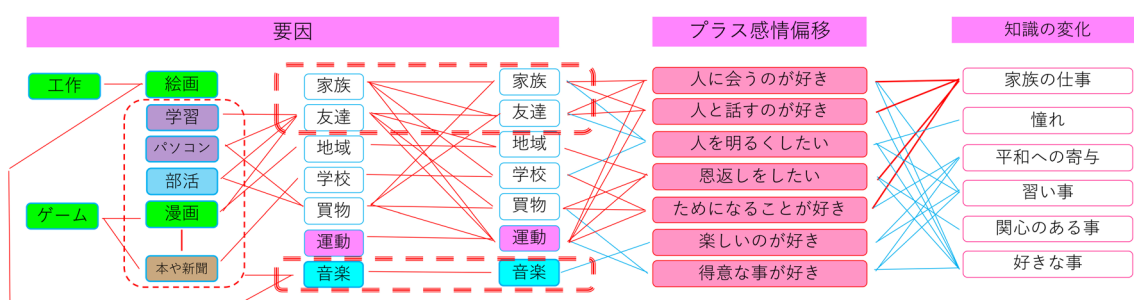


図9 芸術の感情偏移コミュニケーション (津波被害の大きい地域)

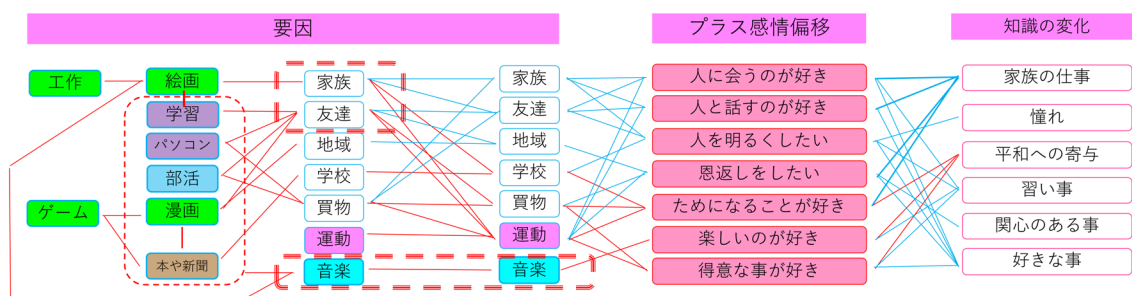


図8と図9で示した芸術の感情偏移コミュニケーションから、下記が当てはまるだろう。

症状や被害で芸術との関係が異なる理由

軽傷や被害が小さい場合、絵画を中心として音楽 - 絵画 - 工作が独立して芸術側にある。芸術側（Interpersonal）にあるMIは、子供達が周りの人々と共感できると心理面での効果が大きい⁽¹⁰⁾。このため、セラピストや友達などが絵画を取り入れ子供達が共感すると、子供達は喜んで絵画を選ぶことが多い。

重症や被害が大きい場合、子供達は音楽が感情側で子供達のプラス感情偏移に直接繋がる。このため、音楽をセラピーとして選んだり、音楽を聴くと奏でるが直接繋がったりする。音楽は即効性のプラス感情生成、そして非日常から日常へ戻る時の感情偏移ジャンプの軽減を期待できる。

重症や被害が大きい子供達へは絵画の効果が大きい理由

絵画は芸術側にあり、周りが絵画を取り入れ子供達が共感すると絵画の効果が大きくなるとともに、セラピストや家族・友達を経由して子供達の感情側にあるプラス感情偏移に繋がる。このため、軽傷や被害が小さい地域の子供達と比較して、重症や被害が大きい地域の子供達は、周りの人々とのプラスの共感により絵画の効果が大きくなる。

マイナスの状況下でも役立つ芸術

マイナスの状況が大きくなるほど、音楽や芝居・ダンスなどは子供達のプラス感情偏移に直接繋がることから、即効性の効果が期待できる。体を動かす遊びも同様である。

津波被災の避難生活から日常生活へ戻る時、図9から図8への感情偏移ジャンプ(Dissociation)が発生する⁽⁹⁾。音楽や運動は子供達の感情側と芸術側の両方にあるMIで、この感情偏移ジャンプの軽減が期待できる。津波被災と同様に covid-19 の非日常生活で大きなストレスを抱えた場合、子供達は非日常から日常へ移る時に感情偏移ジャンプが発生すると思われる。非日常生活でのストレス軽減と共に、日常生活へ戻る時の感情偏移ジャンプの軽減が大切と思われる。

絵画や工作などは、子供達が共感を持つとその効果は大きい。更に、家族・友達など子供達の周りの人々との繋がりによって子供達のプラス感情偏移に繋がることから、長期間の効果が期待でき

る。漫画を描くことや落書き遊びも同様である。

絵画は子供達だけでなく、子供達、家族、友達とのプラス感情偏移の相乗効果が期待できる。

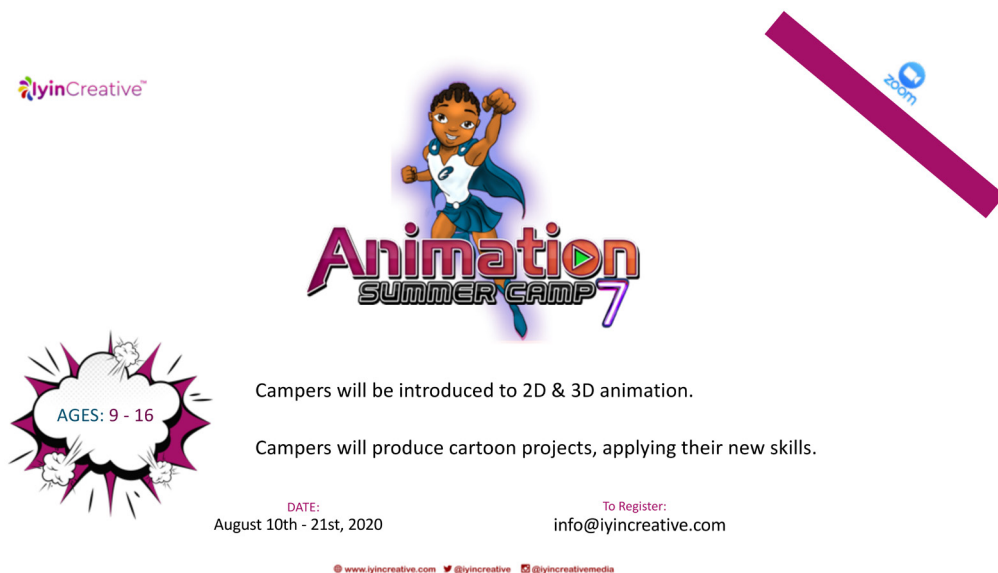
5. 文化の異なる国でも同じだろうか？

covid-19 での困難の状況でも、ナイジェリアの IYIN-CREATIVE は子供達へのアニメーション制作教育を続けている⁽²⁾。同組織は、紛争などで心に傷を負った子供達や金銭的に恵まれていない家族の子供達向けにアニメーション教育を行っており、また、ナイジェリアの文化を守るためナイジェリアの複数の言語でのアニメーション（図10）も制作している。同組織の Animation Summer Camp（図11）は、子供達自身がアニメーションを制作する教育プログラムである。子供達自身が絵を描き、ストーリーを創り、自分達の声と絵でアニメーションを制作する。アニメーションの作品は、YouTube で公開している⁽¹¹⁾。

図10 ナイジェリアの文化と言語の教育用アニメーションANiLiNGO⁽²⁾⁽¹¹⁾



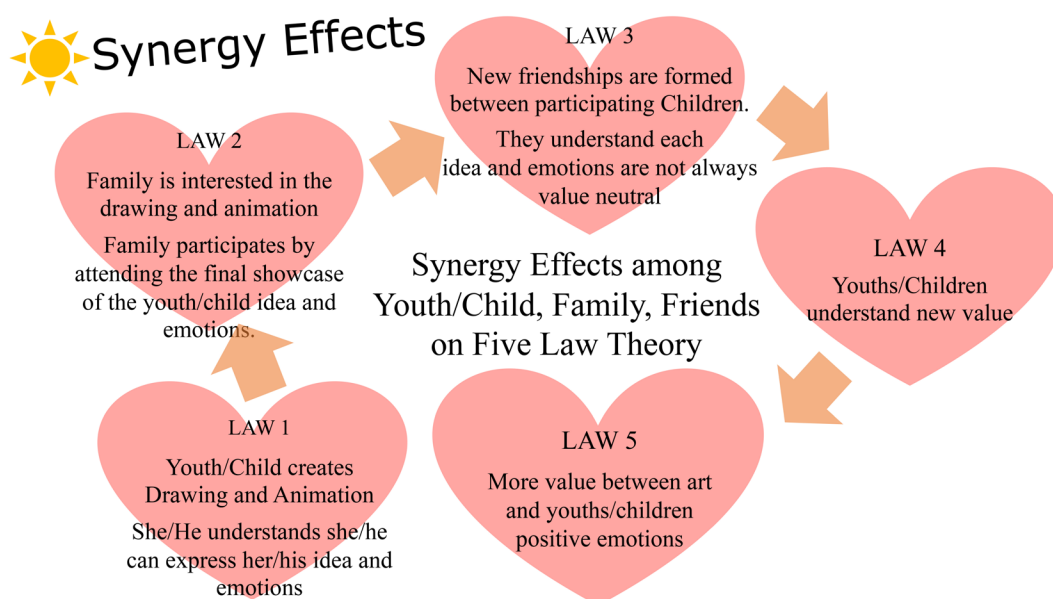
図11 covid-19の状況下で実施するアニメーション制作の教育プログラム⁽²⁾⁽¹¹⁾



絵画やアニメーションを用いて子供達・家族・友達のプラス感情偏移への相乗効果を生成する実践例は、同組織が実践している内容⁽²⁾から図12となる。同図は絵画やアニメーションを用いる相乗効果を、図書館の利用人数が増える理論 The Five laws of library science⁽¹²⁾で示したも

のである。(Law 1) 最初に子供達が絵画・アニメーションを制作すると、子供達は自分のアイディアや感情を表現できることに気づく。(Law 2) 家族が子供達の取り組みや作品に関心を示し、子供のアイディアや感情に集まりはじめる。(Law 3) 時間の経過や、さらに多くの子供達が集まるとアイディアや感情の発散が始まり、(Law 4) アイディアや感情が異なる個人やグループがあることに気づき、収束に至ると異なる互いのアイディアや感情を理解することができ、(Law 5) アイディアや感情を表現する条件が増加して行く。

図12 子供達・家族・友達のプラス感情偏移への相乗効果 (IYIN-CREATIVE提供)



日本の避難生活中の子供達の分析とナイジェリアのマイナス状況下での実践を比較すると、絵画や漫画・アニメーションは子供達だけでなく、子供達と家族や友達のプラス感情偏移を相乗効果的に生成している。この比較を見る限り、文化の異なる国々でも絵画や漫画・アニメーションで同じようなプラス感情偏移の効果が期待できるであろう。このためには、子供達・家族・友達の文化や言語を用いることが非常に大切である。

ユネスコ MIL^x は子供達の感情だけではなく、子供達、家族や友達のグループ、コミュニティ内やコミュニティ間のインスティテュートへメディア情報リテラシーを拡大し、相乗効果的に感情回復などのソーシャルコンピテンスをはかることができ、災害や戦争による避難生活、そして昨今の covid-19 などのマイナス状況下でも現場で実践できるメディア情報リテラシーである。

6. おわりに

3.11 津波被災の石巻では、学校が再開して子供達が日常へ戻ると街が生き返り始めた。子供達のプラス感情偏移がとても大切な事と実感した。2019 年の 3 月に、石巻の石ノ森漫画館を

通じて石ノ森先生の「マンガ＝萬画」は読み手に様々なことを分かりやすく伝える事ができる素晴らしい媒体とのコメントをいただいた。また、3.11 から既に8年経過していたにも関わらず、同漫画館から「被災地や難民の子どもたちに光が届けられますよう心よりお祈りいたします。」とのメッセージをいただいた。様々なマイナス状況が発生する現在、このような心やIYIN-CREATIVEの奉仕活動への心が子供達のプラス感情偏移を生成する大きな源のように思えてならない。

Summary of this article

Youths/children emotions with understanding their culture are important against negative context such as covid-19, refugee life by Tsunami, war, etc. Art has opportunities of emotional resilience. Our experiences of Tsunami, 11 March 2011 in Japan, explain that music can recover youths/children emotions rapidly and drawing has opportunities to create synergy effects among a child/youth, family and friends for a long run. Installing youths/children drawing into animation with their emotions as well as their idea, the synergy resilience of emotions is practiced by MIL^x together with emotional literacy expansion. The results of Tsunami area in Japan are compared with “Animation Summer Camp” of IYIN-CREATIVE who has been inviting and educating youths/children against negative context including covid-19 since 2014 in Nigeria. The comparison indicates that art can create synergy effects among a youth/child, family and friends. And art such as ANiLiNGO, an animation of native language with native culture, could help therapists for refugee youths/children to Europe because of generating youths/children positive emotions with their culture and without their language barrier. Therefore, art on MIL^x can compete social difficulties and emotional aspects are considerable toward post SDGs from 2030.

-
- (1) Grizzle, A. and Hamada, M. (2019). Media and Information Literacy Expansion (MIL^x), Reaching Global Citizens with MIL and other Social Competencies. (Ed.) Ulla Carlsson. Understanding Media and Information Literacy (MIL) in the Digital Age, A Question of Democracy. 239- 259. University of Gothenburg.
 - (2) Hamada, M., Grizzle, A. and Oyeleye, K. (2020). PROPOSING TOWARD POST SDGs - PRACTICAL DESIGN OF MIL EXPANSION (MIL^x) : IMPLEMENTING MIL^x BETWEEN EMOTIONAL AND SOCIAL, BY MEANS OF THEORIZING EMOTIONAL COMMUNICATION ON ART, WSIS Forum 2020 Session 136 : 12:00–13:00 CEST (UTC+02:00), THURSDAY, 16 JULY 2020.
 - (3) Maslow, A.H. (1943). "A theory of human motivation". *Psychological Review*. 50 (4): 370–96. doi:10.1037/h0054346
 - (4) Hamada, M., Tsubaki, M. and Suzuki, T. (2020). Relationship Analysis between Children Interests and Their Positive Emotions for Mobile Libraries' Community Development in a Tsunami Area, The 12th Qualitative and Quantitative Methods in Libraries International Conference (QQML 2020), Virtual Conference 26 May, 2020, SCS1: The Added Value of Library services
 - (5) Zarobe, L. and Bungay, H. (2017). The role of arts activities in developing resilience and mental well-being in children and young people a rapid review of the literature. *Perspectives in public health*, 2017. DOI:10.1177/1757913917712283

- (6) Gerber, M.M., Hogan, L.R., Maxwell, K., Callahan, J.L., Ruggero, C.J. and Sundberg, T. (2014). Children After War: A Novel Approach to Promoting Resilience Through Music. *Traumatology: An International Journal*, 2014, Vol. 20, No. 2, 112–118. DOI: <http://dx.doi.org/10.1037/h0099396>
- (7) Gardner, H.E., (1983). *Frames of Mind: The Theory of Multiple Intelligences*, Basic Books, 1983
- (8) Metzl, E., Morrell, M and Field, A. (2016). A Pilot Outcome Study of Art Therapy and Music Therapy With Hospitalized Children (Étude pilote des résultats de l'art- thérapie et de la musicothérapie auprès d'enfants hospitalisés), *Canadian Art Therapy Association Journal*, 29:1, 3-11, DOI: 10.1080/08322473.2016.1170496
- (9) 浜田正稔、Alton Grizzle (2020) 「子供達のプラス感情偏移から見たメディア情報リテラシー」、『メディア情報リテラシー研究』 第1巻第2号 2020.03 : 57-69
Hamada, M. and Grizzle, A. (2020). Children positive emotions and Media and Information Literacy. *The Journal of Media and Information Literacy*, March 2020, 57-69, Hosei University Training Course for Librarians, Japan.
- (10) Alonso, D. A., León-del-Barco, B, Mendo-Lázaro, S and Gallego, D. I. (2020). Examining Body Satisfaction and Emotional–Social Intelligence among School Children: Educational Implications, *Int. J. Environ. Res. Public Health* 2020, 17, 2120; doi:10.3390/ijerph17062120
- (11) Animation Summer Camp
<https://www.youtube.com/playlist?list=PL1IM-cyrCXs27b0PFcW7mmP0Gb3APlu30>
ANiLiNGO
<https://www.youtube.com/watch?v=Qht9QA6uPVA>
- (12) Ranganathan, S. R. (1931). *The five laws of library science*. Madras, Madras Library Association; London, E. Goldston, 1931